

## 企業誘致を積極的に進めよ

本市の施策の柱として取り組む

質

本市の活力を維持させるためや、地域産業の基盤づくりのために、企業誘致を積極的に進めるべきではないか。

そこで、次の3点を伺う。

- ①現状の取り組みは。
- ②本市に与えるメリットとデメリットは。
- ③空き地や空き校舎の有効利用の考えは。

答 企画部長

①中九州横断道路の部分開通による交通アクセスの向上や光ケールの敷設などの立地環境もPRしながら、進出企業本社などへ訪問し、工場跡地情報の提供に努めています。

②メリットは、法人市民税および雇用や所得の向上が期待できることから、自主財源の確保ができることが挙げられます。

一方デメリットは、既存の中小企業の経営を圧迫することや、地域経済の安全性を脅かします。

③一般的な企業誘致の観点からは、条件的に不利な要素ではありますが、6次産業化を図る企業などへ、情報提供やアプローチの必要性があると考えています。



伊藤 義憲



海藻加工食品会社の進出が決まった工場跡地（犬飼町）

## 観光協会の将来と展望は

～ 持続可能な観光施策を推進 ～

質

本市観光の要でもある観光協会の将来の展開と、ツーリズム協会への飛躍の内容について伺う。

答 産業経済部長

財政基盤の確立を図らなければならない中で、持続可能な観光施策を推進していくことです。

「観る観光」から、「交流・体験する観光」、いわゆるツーリズムへと転換を図り、日本ジオパークの認定に向け、ジオプロジェクト事業を本格的に実施し、ツーリズムを浸透させ、観光のビジネス化を推進してまいります。

※その他の質問  
・周辺町の対策は

## 三重総合高校の支援を

～ 支援組織の結成を協議 ～



あか みね けん じ  
赤 嶺 謙 二

**質**

市内にはたった一つしかない高校となり、市民にとっても大事な宝物である。もっと応援すべきとの観点から、次の3点を伺う。

① 市内各中学校の三重総合高校への受験生数と比率は。

② 現在の支援組織の状況は。

③ 市民の支援意識の向上について、市の考えは。

**答** 教育長

① 各中学校の受験生数は、三重87人、清川3人、緒方13人、朝地8人、大野11人、千歳5人、犬飼5人、合計132人で、全中学生の37・5%でございます。

② 本年1月から、「三重総合高校を育てる会

(仮称)」の立ち上げを、高校側と市で連携した協議を進めているところでございます。

③ 奨学金・入学準備金貸付制度の周知を図るとともに、中学校への情報提供や出前授業の受け入れなど、引き続き、連携を図ってまいります。



## 三重診療所の廃止は

～ 県にも責任の一端 ～

**質**

今回の廃止の責任は、市よりも県にあると思う。

補助金返済の話など、もつてのほかであり、これまでの経過を踏まえ、市は毅然とした態度で県と向き合うべきでは。

**答** 市長

医師確保ができなかったことが大きな要因であり、病院統合に関する基本協定書第9条には、県と市が共同で全力をあげて取り組むこととなっていますので、今回の廃止につきましては、県にもその責任の一端があると考えています。

※その他の質問  
・ 職員懲戒審査委員会について  
・ 大衆浴場、三重温泉の閉鎖について